

地域銀行の非金利収入と経営パフォーマンス ～投資窓販を中心とした分析～

森祐司（九州共立大学）

投資信託の窓口販売が銀行に解禁されてから十数年が経過した。投信信託の窓口販売によって銀行業界にもたらされた影響は小さいものではなく、特に地域銀行（地方銀行と第二地方銀行）は、都市銀行等と比べて、シンジケート・ローンの組成や証券関連での手数料ビジネスの機会が多いわけではないため、投信窓販による手数料収入の貢献は地域銀行にとって大きなものとなっている。本稿では、このような地域銀行の非金利収入による経営パフォーマンスへの影響について、近年の個別銀行のパネルデータから分析した。

まず、地域銀行の投資信託の窓口販売業務（投資信託業務）が拡大することにより、役務取引等収益への正の影響があることを確認した。さらに、それら投資信託業務の拡大により、地域銀行の収益構成の分散化に正の影響をもたらしことも確認した。

これは、投資信託業務の拡大によって、従来地域銀行の非金利収入の中心は為替手数料収入であったと見られるが、その傾向から変化してきていることを窺わせる。

地域銀行の場合、非金利収入の中で「役務取引等収益」が重要であるが、その中で為替手数料以外の「その他役務取引等収益」に投資信託業務での収入は含まれる。これら「役務取引等収益」、あるいは「その他役務取引等収益」が地域銀行の経営パフォーマンスにもたらす影響について検証したところ、地域銀行のROEに正の効果をもたらし、収益性を高める影響があることが分かった。その一方で、ROEの変動（標準偏差）については正の影響も見られた。この結果、地域銀行の収益変動を増幅する効果もあることが確認され、近年見られた地域銀行による投資信託販売の拡大と停滞により、地域銀行の経営パフォーマンスにも影響があったことも示唆された。

また、地域銀行の非金利収入業務を含む収益構成の分散化が経営パフォーマンスにもたらす影響についても検証した。その結果、収益構成の分散化によって、ROEに正の影響をもたらしという結果を得られた。

これらの分析結果をまとめると、地域銀行の投信窓販業務は「その他役務取引等収益」への貢献を通じて、「役務取引等収益」の拡大に寄与する一方、収益構成の分散化にも影響をもたらしていることが確認された。さらに、それら分散化はROEの向上をもたらし一方、その変動を高めることも示唆された、ということである。